

事務事業 No./名 称	■サービス部門 健福-02 社会福祉協議会支援事業 □支 援 部 門						
主管課	福祉総務課	関連課					
分野名							
目標 (目標値)	社会福祉協議会が適切に運営できるように支援していく。						
人口等の データ	データ区分	24年度	23年度	22年度	備 考		
	人 口	177,224人	177,204人	177,161人	・各年4月1日 (住民基本台帳)		
	世 帯 数	79,669世帯	79,217世帯	78,812世帯			
	事業の対象者数						
運営資源 状 況	決算値(千円)	52,073	54,186	63,749			
	(国・県)	0	0	0			
	(負担金等)	0	0	0			
	(一般財源)	52,073	54,186	63,749			
	人員配置数	0.9	0.9人	0.5人			
	人件費(千円)	7,294	7,936	4,487			
	協働の パートナー	無	無	無			
事務事業 運営経費	総事業費(千円)	59,367	62,122	68,236			
	市民1人当 りの経費(円)	335	351	385			
	対象者1人 当りの経費(円)						
ベンチマーク (県内外自治体 や民間団体と の比較値)	団体名⇒						
指 標	評価	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終年度(27年度)
		目標値					
◎目標を達成 ○目標に向かって前進 △横ばい ×後退		実績値					

評価のポイント

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。	②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。	④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

小事業名	H24決算値	評価	適切＝○、要改善＝△(評価の視点を参照)	⇒	方向性	A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止									
社会福祉協議会支援事業	52,073千円	①効率性	○	②妥当性	○	③有効性	○	④公平性	○	⇒	☐ A	☒ B	☐ C	☐ D	☐ E
	事業の概要	社会福祉法の規定により地域福祉の推進を図る団体として組織されている社会福祉法人鎌倉市社会福祉協議会に補助金を交付する。													
		①効率性		②妥当性		③有効性		④公平性		⇒	☐ A	☐ B	☐ C	☐ D	☐ E
	事業の概要														
		①効率性		②妥当性		③有効性		④公平性		⇒	☐ A	☐ B	☐ C	☐ D	☐ E
	事業の概要														
		①効率性		②妥当性		③有効性		④公平性		⇒	☐ A	☐ B	☐ C	☐ D	☐ E
	事業の概要														
		①効率性		②妥当性		③有効性		④公平性		⇒	☐ A	☐ B	☐ C	☐ D	☐ E
	事業の概要														

事務事業の課題及び取組状況

H24年度の課題	自主財源の確保に向けた取組が必要である。		
課題解決のための取組	社会福祉協議会が自主財源の確保に向け、検討を進めた。	取組の結果	□解 決 ■未解決
未解決の課題	地域福祉の推進のため、その活動の充実が求められているが、その支援のため市の補助金を増額していくことが難しい。		

中事業の評価と今後の方向性

中事業の評価	適切=○ 要改善=△ (評価の視点を参照)	①効率性 ○	今後の 方向性	A: 充実・拡大 B: 現状継続 C: 改善・見直し D: 統合縮小 E: 廃止・休止	※□事業完了
		②妥当性 ○			
		③有効性 ○			
		④公平性 ○			
				社会福祉協議会が、事業の見直しを進め、補助対象事業を効率的に運営できるように、市としての支援を継続していく。	課長等名 福祉総務課長 鈴木 善博

(2面) 個別事業の評価

(単位:千円)

小事業名	ザイムスコード	個別事業名	24年度予算	24年度決算値	評価⇒適切=○、要改善=△(1面の評価の視点を参照)			
					①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性
社会福祉協議会 支援事業	主な個別事業	6 鎌倉市社会福祉協議会補助金	52,073	52,073	○	○	○	○
	主な個別事業							
	主な個別事業							
	主な個別事業							
	主な個別事業							